

12月 7日 (日) 創世記 38章	『あなたのひもの付いた印章と、持っていってやるその杖です』ユダはそれを渡し、彼女の所に入った」(18節)。ユダの長男の嫁タマルは、娼婦の身なりをしてユダと関係を持ち身ごもる。保身のためにユダの印章と杖をもらっていた。ユダはタマルを姦淫の罪で裁こうとするが、自分が与えた品々で身動きが取れない。救い主誕生に至る神の計らいなのだろう。
8日 (月) 創世記 39章	「主がヨセフと共におられ、ヨセフがすることを主がうまく計らわれたからである」(23節)。ヨセフはエジプトに売られ、ファラオの侍従長の家に仕えるが、主はヨセフと共におられ、侍従長の財産を管理する者となる。しかし、侍従長の妻の策略により監獄に入れられてしまうが、監守長は獄中の人をすべてヨセフに委ねた。主が伴われる祝福は限りない。
9日 (火) 創世記 40章	「ヨセフは、『解き明かしは神がなさることではありませんか。どうかわたしに話してみてください。』と言った」(8節)。エジプト王に過ちを犯した宮廷の二人の役人が、牢獄に入れられてヨセフの世話を受ける。二人は同じ日に夢を見て、その夢をヨセフは解き明かす。神はヨセフに夢を解き明かすというわざをも示された。神がヨセフに強く働きかけているのだろう。
10日 (水) 創世記 41章	「お前をわが宮廷の責任者とする。わが国民は皆、お前の命に従うであろう(40節)。ヨセフはファラオの夢解きを通して、エジプトの責任者となり実権を握る事となる。神が夢の解き明かしを示し、ヨセフを聡明で知恵ある者とした。そして、その夢の通りとなりヨセフの政策でエジプトは食物に困る事は無かった。主のご計画が成就したのだろう。

<p>11日 (木)</p> <p>創世記 42章</p>	<p>「ヨセフは兄たちだと気づいていたが、兄たちはヨセフとは気づかなかった」(8節)。カナン地方にも飢饉が襲いかかる。ヤコブは末っ子のベニヤミンを残して10人の子たちをエジプトへ食物を買いに行かせた。ヨセフは兄たちを見てすぐに分かるが、「回し者」と難癖をつけて弟のベニヤミンを連れて来るように命令する。この後、主の愛を見ることになる。</p>
<p>12日 (金)</p> <p>創世記 43章</p>	<p>「息子たちは贈り物と二倍の銀を用意すると、ベニヤミンを連れて、早速エジプトへ下って行った」(15節)。やっと父ヤコブの承諾を得て、下の弟ベニヤミンを連れて下って行くことになった。ヨセフは弟を見ると胸が熱くなったが、平静を装い執事に命じて昼食の用意をさせた。不安がる兄たちだが、ヨセフにとってはこの上ない喜びの時だったことだろう。</p>
<p>13日 (土)</p> <p>創世記 44章</p>	<p>「何とぞ、この子の代わりに、この僕を御主君の奴隷としてここに残し、この子はほかの兄弟たちと一緒に帰らせてください」(33節)。父との約束を守ろうとして、自分を犠牲とするユダの姿勢は、父と兄弟たちを心から愛するゆえであろう。その愛に触れたヨセフは平静を保てなくなり、兄弟たちに自分の身を明かす事となる。神のなさることに驚嘆せざるを得ない。</p>
<p>14日 (日)</p> <p>創世記 45章</p>	<p>「わたしをここに遣わしたのは、あなたたちではなく、神です」(8節)。兄たちの憎悪によって売り飛ばされた時以来、ヨセフは自分の心にふつつつ湧きおこる怒りや疑問と向い合わない日はなかったことだろう。しかし今やヨセフは、神を主語にして自らの人生を語れるようになった。神を主語にして神の慈しみを語ることができる。信仰による大きな恵みがここにある。</p>